

1～3月の少雨に対する農作物の技術対策

令和8年2月10日
農林水産部担い手支援課

気象庁の発表によれば、千葉県を含む関東甲信地方では、昨年11月中旬から降水量の少ない状態が続いています。この状態は、今後も1か月程度は続く見込みです。農作物や水の管理等に注意が必要です。

については、次の事項を参考に、技術対策を実施してください。また、記録的な少雨になった令和7年には、冬から春にかけて大規模な林野火災が全国的に多く発生しました。火の取り扱いに十分注意してください。

<事後対策>

1 園芸共通（野菜）

(1) 果菜類（スイカ、メロンなど）のトンネル栽培について

- ア 基肥施用、耕起は早めに行い、降雨を待って畝立てし、マルチやトンネル設置を行う。
- イ 降雨に関係なくマルチを展張する場合は、土壤水分の状態を確認し、乾燥している場合は、必要に応じて数日前にかん水を行う。
- ウ 低温による定植後の活着不良を防ぐため、マルチとトンネルの設置は、遅くとも定植2週間前までには行い地温を確保する。

(2) 根菜類（ダイコン、ニンジンなど）のトンネル栽培について

- ア 基肥施用、耕起は早めに行い、降雨を待って畝立てし、播種を行う。降雨に関係なく播種する場合は、播種前の土壤水分の状態を確認し、乾燥している場合は必要に応じて数日前にかん水を行う。
- イ 播種後の低温・乾燥が激しく発芽不良の恐れがある場合には、不織布などのべたがけ資材の被覆により保温・保湿を行う。ただし、発芽後の徒長を防止するため、被覆の除去に注意する。
- ウ 特にダイコンは、生育初期の土壤の乾燥条件によって、横縞症が発生しやすくなるので、播種前の土壤水分の確保に注意する。

(3) 生育期間中の露地野菜（食用ナバナ、ソラマメなど）について

- ア 土壤の乾燥条件による生育停滞の恐れがある場合、必要に応じて通路部分へのかん水を行う。ただし、日中の気温が高い時間帯に行う。
- イ 特にソラマメは、開花期の土壤の乾燥条件によって、着莢不良等が発生しやすくなるので、開花期の土壤水分の確保に注意する。

2 常緑果樹

- (1) ビニル、わら等でマルチして、土壤の乾燥を防ぐ。
- (2) 必要に応じてかん水を行う。